

# 【参考】東西軸 これまでの取組み

## 取組の背景・目的

市中心市街地では、新施設「おにクル」やJR・阪急両駅前エリアなどで新たな拠点形成に向けた事業が進行中。

▶ これら各事業の効果を波及させていくことが必要



## 【東西軸の課題】

- ・歩道が狭く、自動車中心の道路で、自転車利用も多く、歩道上で歩行者・自転車の錯綜が見られ危険である。
- ・座る場所が少なく、滞在しにくく、通りすぎる歩行者が多いため、賑わいに欠けている。
- ・通り全体のイメージの共有や空間活用の視点が不足している。
- ・将来、一方通行化の構想がある。



- 歩道幅員だけでなく、道路空間としてゆとりがない。
- 交通量は減少傾向にあるものの大型車両も含めて、**交通量が多い**。
- 建物前のオープンスペースが少なく、休憩・滞留空間に乏しい。
- 商店街など店舗が連続する部分が限られ、**通り全体の賑わいにつながらない**。
- 沿道の土地利用などが通りごと、エリア（JR側、阪急側）ごとで異なり、**通りの雰囲気等が異なる**。
- 街路灯や安全柵などのデザイン、街路樹の樹種や設置位置などに**統一感がない**。



## 【取組の目的】

道路空間と沿道建築物等が一体となった、歩きやすく歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図り、各拠点の賑わいを面的に広げ、市中心市街地の活性化に寄与する。

## ■スケジュール

- 令和2年度 現況調査
- 令和3年度 ①ワークショップ、勉強会による将来像の検討
- 令和4年度 ②空間のあり方の検討、③社会実験の実施
- 令和5年度 ④ガイドライン策定・景観計画への反映等
- 令和6年度以降 ガイドラインに沿った環境整備



## 【令和3年度】

### ①将来像の検討

3回のワークショップ、2回の勉強会等を実施し、通りの将来像について沿道事業者等と検討

【通りの将来像(案)】⇒多くの意見を聴き、磨きあげていく予定

目指すべき将来像

### 人が主役になり、まちの魅力を“次ぐ”2つのメインストリート

市役所、おにクル、元茨木川緑地などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気を出す空間をデザインし、各拠点の魅力をまち全体に広げていく。

将来像を実現する上で重視する4つの視点

<p>人と人との“ワンコミュニケーション”を楽しむ</p> <p>通りを行き交う人や店舗の人との自然に生まれるコミュニケーション、新たな交流を生み出す場所などの楽しめる拠点づくりを誘導します。その賑わいの様子が日常的な景色となることを目指します。</p>	<p>沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まり歩きやすくなる</p> <p>沿道の賑わいが通りにじみ出すとともに、店舗と一体感のある種数や看板等の空間演出、通りの統一感などにより、ストリートとして歩いて楽しくワクワクする東西軸を形成します。</p>	<p>まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りやすくなる</p> <p>沿道でのコミュニケーションや新たな交流、通りの賑わいのにじみ出しといったまちなかの様々な魅力を繋ぐことで、目的のあるお出かけだけでなく、そぞろ歩きを楽しめる、まちなかを形成します。</p>	<p>ゆったり並んで、安全・安心に歩きやすい</p> <p>通りを行き交う様々な人や自転車が安心して通行できるように、ゆとりある空間整備や通行の適正化に向けた取組を実施し、より安全な東西軸を実現します。</p>
---	---	---	---



## 【令和4年度】

### ②空間のあり方の検討(将来像の可視化)

これまで実施した市民ワークショップの結果等を基に、各通りの空間のあり方を検討

#### North

##### 【デザインコンセプト】

#### 中央通り

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

気軽に立寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、まちの賑わいや人々の活動が広がる通り

#### 【中央通り 将来像のイメージ(素案)&中央通りのデザイン指針(素案)】



##### <道路空間>

自動車と歩行者等が共存し、人中心となるように、歩行者や沿道における人々の活動や交流に配慮した空間とします。

##### <沿道空間>

歩きたくなる空間を形成するため、商業施設の低層部はまちに開かれた設えなどを推奨するとともに、周辺環境と調和し良好なまちなみを形成する建築物を誘導します。

#### South

##### 【デザインコンセプト】

#### 東西通り

身近に潤いを感じる良質で落ち着きのあるデザイン

自然による癒しを感じ、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむ自由に過ごせる落ち着いた通り

#### 【東西通り 将来像のイメージ(素案)&東西通りのデザイン指針(素案)】



##### <道路空間>

潤いと落ち着きある雰囲気を形成するにふさわしい、高質で洗練された空間を形成します。

##### <沿道空間>

積極的な緑化やオープンスペースの整備などを推奨するとともに、周辺環境と調和し良好なまちなみを形成する建築物を誘導します。

## ■プロジェクト名の検討、ロゴの作成

①将来像の検討や、②空間のあり方の検討などを基に作成。メインストリートの取組に幅広く活用



### ■プロジェクト名「茨木みちクルプロジェクト」の意図

市中心市街地の各拠点をつなぐメインストリートとしての「みち」に、人がたくさん「クル」ことをイメージし、笑顔に満ちた人たちがクルクルと回遊して、市中心市街地の活性化につなげていくことを意図

### ■ロゴの意図

市中心部の新施設『おにクル』や、元茨木川緑地(1パーク)と両駅(2コア)とを2つの通りがつなぐ、織り込むというイメージで表現したもの(赤は「賑わい・交流」の中央通り、緑は「潤い・落ち着き」の東西通りをイメージ)

# 【参考】東西軸 これまでの取り組み

【令和4年度】

## ③社会実験の実施

本市のメインストリートの空間のあり方等を検証するため、社会実験を実施

【目的】 (1) 通りとしての将来像の可視化	ワークショップ等にて検討してきた将来像を可視化し、空間のあり方等について、検証する。
(2) 沿道事業者等の機運醸成	魅力的な沿道空間を持続的に進めるため、将来像の可視化等を通して、沿道事業者等との関わりについて、検証する。
(3) 歩行者・自転車の通行の啓発	歩行空間での自転車との錯綜など、安全面の向上が課題であるため、自転車の適正な通行を促すサインを設置し、啓発を行う。

【日程】 2022.11.3(木・祝)～11.30(水) 28日間 (①JR駅前商店街部分のみ11.8～11.13の7日間)

【場所】 中央通り、東西通り

【内容】 沿道事業者の参り出しによる通りの賑わいづくり、道路や公園を活用した休憩・滞留空間の創出、沿道事業者との連携による空間演出など

【関連取組】 (1) オープニングイベント (11月3日に、社会実験箇所を巡り、実験内容や空間のあり方などを意見交換)  
(2) 振り返り会(R5年1月15日に、社会実験結果を共有し、沿道の活性化やまちづくりについて意見交換)



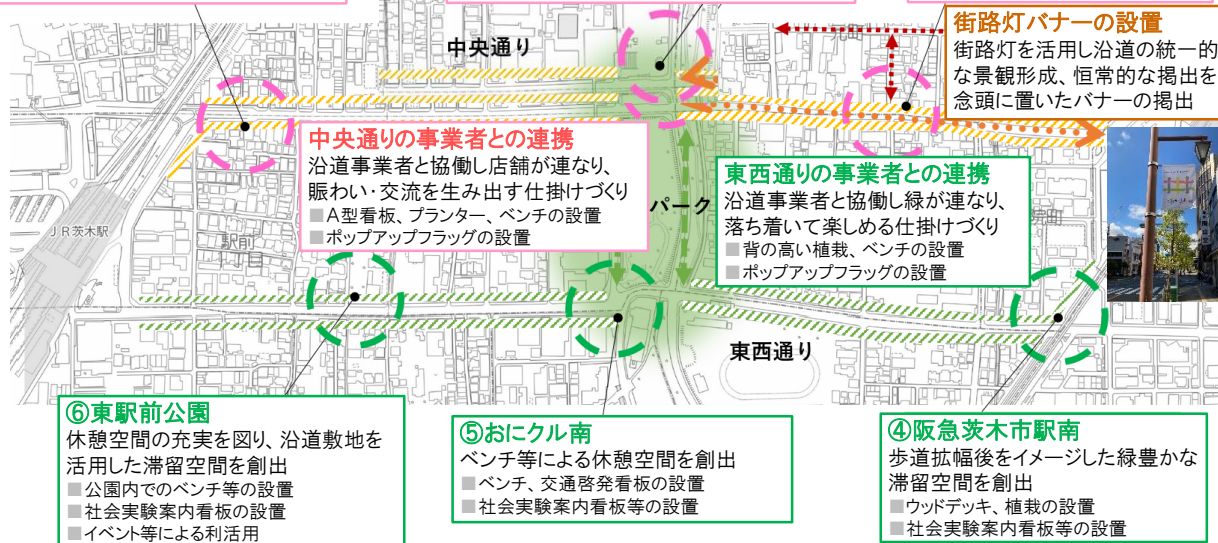
①JR駅前商店街  
沿道の飲食店の参り出しによる通りの賑わいを演出  
■ テーブル・椅子の設置  
■ 社会実験案内看板の設置



②おにクル北  
歩道幅後をイメージした、人が行きかう広がりある道路空間活用の将来形を演出  
■ ウッドデッキ、植栽の設置  
■ 市民意見を集めるブース等の設置



③茨木心斎橋商店街入口前  
商店街との接点で情報発信等を行い回遊を促進  
■ 地域情報案内看板の設置



## ■社会実験の結果と評価

### (1) 通りとしての将来像の可視化

・通りの将来像を可視化することができ、将来像や将来イメージについて、概ね賛同を得ることができた。  
■ 将来像: 来訪者の8割、沿道事業者の7割が共感、 ■ 将来イメージ: 来訪者、沿道事業者の8割以上が共感

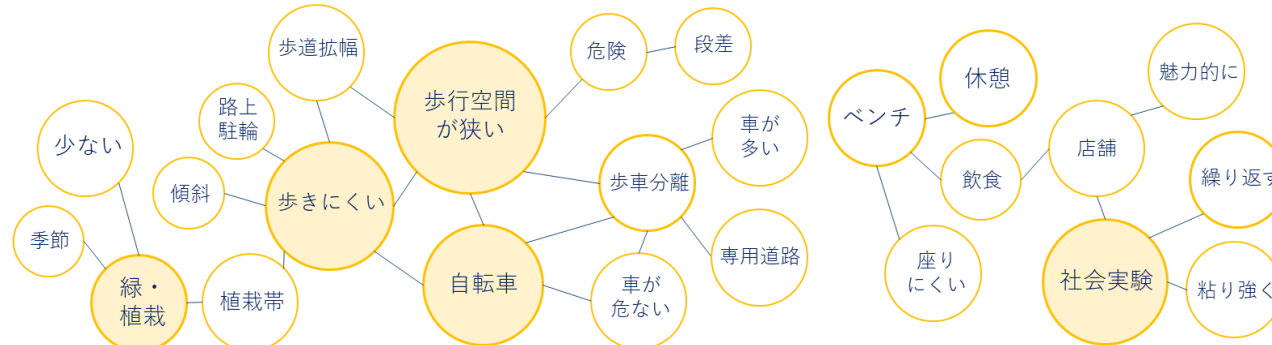
・行政、民間に望むものとして、下記の内容に多くのご意見があり、魅力的な景観形成には、安全に「歩きやすい」環境の検討も重要な要素である。

＜主に行政に望むもの＞

- ・通行の安全面に関する課題解決に向けた取組
- ・洗練された道路空間デザインの検討・整備

＜主に民間に望むもの＞

- ・滞留や休憩ができる空間となるよう軒先を活用
- ・沿道事業者が連携・協力した一体的な取組



※来訪者アンケート自由記入を共起ネットワークで整理

・滞留空間については、所々で休憩される様子は見受けられたが、多様な利活用には至らなかった。一方で、イベント時などの楽しめるコンテンツと組み合わせただけの場合には、多くの利用が見られた。

⇒ 魅力的な景観づくりを進めるためのデザインの方向性や持続的な運用等を検討し、示すことが必要

### (2) 沿道事業者等の機運醸成

・82店舗と多くの沿道事業者の協力を得ることができ、連携によるメインストリート形成への足掛かりにすることができた。(協力内容: ポップアップフラッグ、A型看板、プランターなど)

・一方で、1回の社会実験では沿道形成に対する機運が高まったとは言えず、積極的な参加希望は限定的であった。

■ 沿道の取組: 5割以上が継続したい、 ■ 活性化の取組を話し合う場への参加: 「ぜひ参加したい」が1割弱

⇒ 沿道事業者等とのつながりを切らすことがないよう、継続した沿道の機運醸成に向けた検討が必要

### (3) 歩行者・自転車の通行の啓発

・看板による啓発だけでは、歩道上を通る自転車の状況に変化は見られず、交通適正化の効果は薄い。  
・安全に通行できる環境整備を求める意見が多くあった。

■ 歩行者・自転車の通行: 6割以上が「歩かにくい・通行しにくい」、 ■ 来訪者、沿道事業者の7割以上が「歩道を歩きやすく」

⇒ 通行の安全面につながる整備(ゆとりある空間の確保など)の検討が必要

## 【関連取組の状況】

